

第23回 外国人による  
日本語弁論大会

The 23rd  
International Speech Contest  
in Japanese

日時：平成24年8月25日（土）

13時～16時30分

場所：アイパル香川（香川国際交流会館）

主催：公益財団法人香川県国際交流協会

共催：香川県

協賛：高松キワニスクラブ、国際ゾンタ高松ゾンタクラブ

後援：NHK高松放送局、四国新聞社、KSB瀬戸内海放送、RNC西日本放送、

香川大学、四国学院大学、徳島文理大学、高松大学・高松短期大学、

香川短期大学、香川高等専門学校、専門学校穴吹ビジネスカレッジ日本語学科

## プログラム

13:00	開会・挨拶
13:05	審査員紹介
13:10	弁論（前半）
14:10	休憩
14:25	弁論（後半）
15:30	審査会
16:00	審査結果発表 (講評、表彰)
16:30	閉会

## 審査員

NHK 高松放送局 放送部長	松浦 一博
株式会社四国新聞社 編集局次長	木原 光治
株式会社 KSB 瀬戸内海放送 報道制作ユニットマネージャー	黒田 雄二
西日本放送株式会社 営業局ラジオセンター長	采野 友啓
高松キワニスクラブ 会長	津村 潤治
国際ゾンタ高松ゾンタクラブ 会長	井上 千恵子
仏生山国際交流会 代表	十河 瞳
公益社団法人セカンドハンド 理事長	平野 キャサリン
香川県 知事公室長	榎本 典昭
公益財団法人香川県国際交流協会 日本語講師	山下 知美

順不同、敬称略

この冊子は弁論大会で発表された内容をもとに作成されています。

## 出 場 者

<small>キム</small> 金 アルム (韓国)	「私が学んだ擬音語、擬態語について」	3
ジェシカ アギレラー (フィリピン)	「たにこ de フィリピン料理」	4
<small>ヨウ トウ</small> 姚 涛 (中国)	「新しい私」	5
<small>オク</small> 玉 ソンア (韓国)	「似ているが、違う韓国と日本の大学」	6
<small>タダ</small> 多田 マーク アラン ジェイ (フィリピン)	「『もしもし』」	7
<small>コウ ビ</small> 黄 薇 (中国)	「どうして他人と同じでないとダメなの？」	8
<small>イ テヒ</small> 李 泰喜 (韓国)	「ジャパントイムで人付き合い、そして日本を学ぼう」	9
<small>リュウ シン</small> 劉 晨 (中国)	「友好の道を築く」	10
<small>ニシムラ</small> 西村 ゲイブ (アメリカ)	「普通の外人じゃない」	11
<small>ガク ギョウレイ</small> 岳 曉玲 (中国)	「いいサービスとは」	12
<small>ドン ユンジェ</small> 董 侖宰 (韓国)	「あなたの心のふるさとはどこにありますか」	13
<small>リ シュウセイ</small> 李 秋靚 (中国)	「すごい日本人のマナー意識」	14



# 「私が学んだ擬音語、擬態語について」

キム  
金 アルム (韓国)

香川に来て約3カ月が経ちました。私は農学部で専門の授業と日本語の授業を受けています。私が日本に来るために勉強した内容もありますし、日本で新しく学んだこともあります。新しく学んだことの一つとして、擬音語が挙げられます。擬音語は事物の音を真似た言葉で、「にこにこ」「さくさく」などがあります。擬態語は人と事物の形や動きを真似た言葉で、「ふうふう」「ぐんぐん」などがあります。授業で学んだ擬音語は夏に使う表現でした。雨が降っている様子と、夏の天気について学びました。私には同じ意味に聞こえました。そして面白い表現だと思いました。

韓国語にも擬音語、擬態語はあります。でも私は日本語の方がもっと数が多く、たくさん使われていると思っていました。それで今回、日本語と韓国語の擬音語と擬態語について調べてみました。

まず、日本語の擬音語と擬態語はどのくらいあるのか、インターネットで調べてみました。全部で約2000個あって、実際に頻繁に使用される数は400個から700個くらいだそうです。こんなにたくさん使っていて、これらが使用されている事実には驚きました。

私が今まで使ったことがある擬音語は「きらきら」「ごろごろ」「にこにこ」「ふわふわ」「そろそろ」「ぴかぴか」「ぺこぺこ」などでした。実際にはこれよりもっと習っていました。知っている擬音語と擬態語の中で驚いたのは「うっかり忘れる」「ちょっと見る」「がっかりする」など、人の状態や様子を表す表現でした。私はあまり使っていないと思っていたのに、実はたくさん使っていました。

授業では「しとしと」「ぽつぽつ」「ざあざあ」「しょぼしょぼ」「どんより」「からりと」「うららかな」「かんかん」「じりじり」を学びました。その中で「ざあざあ」は雨が激しく降る様子だとわかっていました。雨が降っている時の表現は韓国でもよく使っており、似ているからです。「うららかな」「かんかん」「じりじり」は意味を読んでもまだよくわかりません。「うららかな」は天気がよくて暖かく、明るく、穏やかな様子です。「かんかん」は太陽が強照っていたり、日が当たっていたりしている様子で、とてもよい天気の時に使います。「じりじり」は何か脂を含んでいるものが少し焼けたり、焦げたりしている様子です。また、焼けそうなぐらい強い日差しが続いている様子、という意味もあります。特に「かんかん」と「じりじり」は問題を解く時に全然わかりませんでした。外国人にはこのような表現が難しく、新しいと思

いました。

このように日本語には擬音語と擬態語が多いのですが、実は日本は擬音語、擬態語が2番目に多い国です。では1番目に多い国はどこなのでしょう。私も驚きましたが、1番多い国は私の国、韓国でした。私は当たり前のように日本が多いと思っていました。しかし自分の国がもっと多い、意外と使われているという事実には驚きました。

そこで、今度は韓国語の擬音語、擬態語がどのくらいあるのか、インターネットで調べてみました。韓国語は擬音語が約4000個、擬態語が約4000個あるそうです。その理由は、音を聞いて頭に映像を浮かべる部分が、韓国語の中で最も発達しているからです。私は韓国語の文字、ハングルそのものが音を基にして作られているため、多いのだと思いました。

日本語と韓国語で擬音語、擬態語がよく使われている理由は、はっきりしている四季と、自然の影響が多い環境だからだと思います。特に気温が高く、雨が多いからです。それで韓国語と日本語で似ている擬音語、擬態語が多いのでしょうか。しかし、韓国は地震や雨が日本より少ないので、このような部分の擬音語、擬態語は少ないのです。韓国も雨はたくさん降りますが、日本ほどではないし、降り方も違います。

他にも、笑い声は韓国語も日本語も「ははは」「ひひひ」「ほほほ」などがあります。しかし、韓国語は「からからと笑う」という表現はありません。韓国語にない理由は、声が「からから」と聞こえないからだと思います。そして日本語の「ごろごろ」は韓国語では二つの表現があります。韓国語では「Degul Degul」「BinhDuong BinhDuong」と言います。このように日本語よりさらに細かく表現が分かれていることがあります。

今回、日本語の擬音語、擬態語を勉強することで新しく知った事実もあって、日常生活で使用される表現がすごく多いことがわかりました。そして、最も驚いたのは、韓国語には音を表現する言葉がたくさんあったことです。日本で擬音語、擬態語を勉強しなければ知ることのない事実でした。新しい日本語も理解できたり、母国語についてももう一度考えてみるのができた、いい機会になりました。

ご清聴、ありがとうございました。

# 「たにこ de フィリピン料理」

ジェシカ アギレラー (フィリピン)

皆さん、こんにちは。私はジェシカ・アギレラーです。日本へ来て3年になります。1年前からひと月に1回「たにこ」で日本語を勉強しています。

ひと月前、急に「たにこ」の人が言いました。「日本語のスピーチコンテストに出ませんか？」

「えっ！ 私が？」とびっくりしました。

「何を話したらいいのかわかりません」。

「ほら、あのことを話せばいいんじゃない」。

「そうだ、あのことを話そう」と思いました。

6月24日に多度津の豊原公民館で「たにこ de フィリピン料理」というのがありました。「たにこ」というのは「たどつ日本語交流の会」から一つずつとって「た・に・こ」と名前をつけました。

たくさんの方が集まりました。メニューはフィリピンの家庭料理です。3人のフィリピン人の主婦が先生になって、みんなで作りました。マリアさんはロンピャを作りました。ロンピャはフィリピンの春巻きです。ドロレスさんはビーフンを作りました。私はデザートのココを作りました。この三つの料理はフィリピンではとっても有名な家庭料理です。結婚式やお祭りの時はいつもお母さんが作ってくれました。

この写真はドロレスさんです。3人は前の日に料理のために買い物をしました。料理教室の日は40人以上の人が集まりました。

私たち3人のところに15人ずつ分かれて、料理を作りました。ココの材料はもち米とココナッツミルクと黒砂糖です。ココはもち米を炊いた中に黒砂糖とココナッツミルクを入れて、15分ぐらい混ぜて作ります。

「まだですか？」

「もっと混ぜますか？」

私は少し焦りました。いつもよりずっと時間がかかってやっとできました。この写真は私です。日本人や中国人やフィリピン人の人たちが協力して作りました。料理ができたら、グループに分かれて、みんなで食べました。みんな「おいしい、おいしい」と言ってたくさん食べました。グループにはいろいろな国の人がいて、自己紹介をしたり、自分の国のことを話したりして、楽しく交流しました。この写真はマリアさんです。

日本人に教えるということは、初めての経験です。それは忘れられない経験になりました。そしてとても恥ずかしかったです。でもエキサイティングでした。新しい友だちもできて嬉しかったです。日本人や他の国の人た

ちにフィリピン料理を教えることができるととても嬉しかったです。フィリピンの家庭料理をいろいろな国の人たちが協力しながら作ることで、心が一つになったように思いました。これが本当の国際交流だと思います。

これからも私は「たにこ」で皆さんと楽しく交流していきたいと思っています。

ありがとうございました。

# 「新しい私」

ヨウ トウ  
姚 涛 (中国)

皆さん、こんにちは。「いつになれば自分が変わり、両親を心配させないようにできるのか」。これは高校生の頃、よく自分に問いかけていた質問です。

小学校時代にしろ、中学校時代にしろ、大きいテストが来るたびに悪い成績をとっていました。高校の卒業試験の成績でさえ、自分の期待通りの結果ではありませんでした。何が原因でこうなったのか、日本へ来るまでは全然わかりませんでした。

しかし去年4月に日本へ来て、一人暮らしをするようになって、私の考え方が間違っていることにやっと気づきました。これは自分の能力の問題ではなく、先生に言われた通り、十分な努力をしなかったからです。

外国での生活は簡単なことではありません。中国にいた時、あまり日本語を勉強せずに、遊んでばかりいたので、日本へ来たばかりの頃は日本語が話せなくて、買い物など簡単なこともできませんでした。友だちもいなかったのも、うちにこもりがちになってしまいました。

アルバイトの時も困りました。たとえば店長が娘さんを「あさみ」と呼んだ時、急いで「はさみ」を渡したこともあったし、店員の名前、「しほ」と「しお」を間違えたこともありました。みんなに笑われて、本当に恥ずかしかったです。でも普通の家庭の子どもとして育った私は、両親の経済的な負担を少しでも減らすために、アルバイトをしないわけにはいきません。以前はアルバイトが遅く終わって、うちに帰ると、疲れて宿題をする気力がなかったので、あまりしたくありませんでした。ですから成績も段々悪くなってきました。でもこれでは自分が何のために日本に来たのか、わかりません。それでアルバイトと勉強のバランスをとることが非常に大切だとわかって、自分で時間を管理しなければならないと思いました。これらをきっかけにもっといい自分になりたいという意志が強くなりました。

それからは毎日自分で作ったスケジュールの通りに生活しています。アルバイトが何時に終わるかにかかわらず、うちでCDを聞いて発音の練習をしたり、学校で習った文法を復習したり、授業中も頑張りました。すると期待していたことがついに現実になってきました。それに、学校以外でも驚きや喜びを感じる出来事も増えました。

ある日、学校で7月に「ホームビジット」プログラムがあると知りました。これは香川に住んでいる学生が週末を利用して、日本人の家庭を尋ねて交流するというものです。自分の日本語を試せるのはもちろん、日本人の

生活を知ることができるいいチャンスだと思って参加しました。ホームビジットの当日は不安でした。向こうの子どもたちは人見知りかもしれないし、彼らの趣味や名前さえも知らないから、話しようがないし……。でも子どもはおもちゃが好きに違いないと思い、おもちゃを用意してプレゼントしました。プレゼントをあげた後、ずっと子どもたちに手を握られて「お兄さん、お兄さん」と呼ばれて本当に嬉しかったです。

食事の後、みんな一緒に座って話をしました。わさびを入れすぎて泣きながら食べた話などの失敗談もたくさんしました。するとわからない時や、困った時はちゃんと聞くことが非常に大切だとアドバイスもしてくれました。年齢を問わず、思い出話をしたり、将来について相談したりして、幸せな雰囲気を感じることができました。これからも日本で生活がしたいと思いました。

中国にいた時は、何の目標もなく生きてきました。日本での生活は自分を成長させ、態度を改めさせてくれました。人生には様々な困難が伴います。でも目の前の困難を克服する人は、必ずいい生活態度を身につけています。真面目で、慎重で、計画的な態度は勝利をおさめるために必要なことです。毎日遊んでばかりでは、失敗するのは当然です。日本に来て1年半が経とうとしています。周りの人たちに支えられて、このようなスピーチ大会に参加したり、ホームビジットを楽しんだりして、毎日が充実しています。これからも日本で生活したいです。両親を安心させたいです。もう高校生の自分とは違います。

最後までお聞きいただき、ありがとうございました。

# 「似ているが、違う韓国と日本の大学」

オク  
玉 ソンア (韓国)

私は韓国から日本に交換留学生として来て、現在、香川大学の経済学部で勉強しています。大学生なので、大学のキャンパスの中で過ごすことが多いです。そこで私が今まで生活して、韓国と日本の大学で違うと感じたことを四つ話したいと思います。

第一は授業のシステムが違います。韓国では授業時間が50分8コマまでありますが、日本では授業時間が90分5コマまでであるという点と、昼休みの時間があるという点です。韓国では、専攻科目は50分授業が10分休みを挟み、3コマ続けてあります。また一般科目も2コマ続けてあります。しかし日本では一つの授業を90分受けて、休み時間が途中にないので、初めのうちは集中するのがたいへんでした。また、私が特にいいと感じたことは、昼休みの時間があるという点です。その時間にお弁当を買って来て食堂で食べたり、うどんを食べに行くこともできるので、非常にいいと思いました。韓国ではお昼のご飯をとる時間が特に設けられていないので、毎日のスケジュールに合わせて、昼ご飯をとります。ですから韓国では友だちとスケジュールが合わない場合は、一緒に昼食をとることができません。しかし日本ではみんなで昼休みの時間を一緒に過ごすことができます。私の高校時代の昼休みに友だち同士で集まってお昼ご飯を食べたのを思い出しました。昼休みの時間があることは、非常にいいシステムだと思います。

第二はゼミの授業です。韓国ではゼミの授業がないので、非常に不思議でした。私は現在ゼミの授業をとってないのですが、関心があって参加したことがあります。韓国では教授1人が30人から40人の学生を受け持ちます。ですから教授と学生がコミュニケーションをとる機会が少なく、特別な学科行事がなければ、全ての学生に会う機会がありません。しかし日本のゼミでは、定期的な会ってプレゼンテーションをしたり、あるテーマで議論をしたり、一緒に就職活動をして情報を共有している姿を見て羨ましいと思いました。

第三は韓国のMT、OTという行事です。OTは新入生のためのオリエンテーションです。入学する前、先輩から学校生活についてのアドバイスを聞いて、新入生同士、事前に親睦を深めるための集まりです。MTはメンバーシップトレーニングです。これは同じ学科の全学年の学生が全員で旅行に行くという、OTより大規模な行事です。また韓国の男子学生は入学して1年間大学で生活した後、2年間の兵役を経て大学に復学します。MTは2年間大学

を休んだ男子学生を、学校生活に適応させるための行事という側面もあります。韓国の大学生は1年の時から飲酒が可能なので、MT、OTでお互いにお酒を飲んだり、腹を割って話しながら、親睦を深めます。

最後、第四は韓国と日本の学期が違います。韓国では1学期が3月初旬から6月末まで、2学期が9月初旬から12月末までとなっています。そして私が来年2月末に日本で期末試験が終わって帰国したら、すぐに3月2日に新学期が始まるので、今年は冬休みがなく、少しいへんになりそうです。

日本で生活するようになって4カ月が経ちました。今では讃岐弁をよく理解し、雨が降れば「今、雨降っじょん？」と話すようになりました。これから残った香川の生活が楽しみです。

ご清聴ありがとうございました。



# 「『もしもし』」

タダ  
多田 マーク アラン ジェイ (フィリピン)

こんにちは。「もしもし、もしもし」、皆さん、お元気でしょうか。私は多田マーク・アラン・ジェイと申します。

私のトピックは「もしもし」という言葉にしました。「もしもし」という言葉はいつも気になっていました。それには理由があります。私の母はフィリピン人です。母は父を呼ぶ時に、いつも「もし」を使っています。それはとても不思議でした。

「もしもし」は電話をかける時、よく使われています。私はどうして電話をかける時には「もしもし」を使って、普通の挨拶の時には使わないのか不思議に思いました。英語では電話での言葉と挨拶の言葉は全部「ハロー」を使います。それで気になっていました。なぜ日本人が電話をかける時、「もしもし」を使うのでしょうか？ 皆さんは知っていますか？ その理由は日本の電話機の普及時には「おいおい」が使われていたそうですが、1890年に電話会社のオペレーターが「もしもし」を使ったのが始まりだったようです。「もしもし」は「申します、申します」という意味ですが、それを短くして「もしもし」になったようです。

電話をかける時、「もしもし」と2回言う理由は、昔はだれかに声をかける時は「もしもし」と言っていたからです。それには妖怪や幽霊を恐れる日本の風習が関係していると思われる。「もしもし」と2度繰り返すのは、自分が妖怪ではないということを証明するためです。妖怪や幽霊が人に声をかける時は「ひとこえ」でしか呼ばないという言い伝えが昔はあったからです。昔は、妖怪や幽霊の「ひとこえ」に答えてしまうと、魂が奪われてしまうと考えられていました。妖怪からの呼びかけは「ひとこえ」なので、相手の姿が見えない電話では、この風習が影響していると考えられます。

ひょっとしたら僕の母が父を「もし」とひとこえでしか呼ばないのは母の祖先が妖怪だったからかもしれない、とちょっと思いました。でもこの言葉の起源は、本当かどうかはわかりませんが……。

皆さんも普段電話をかける時、何気なく「もしもし」と言っていると思います。私はこの言葉は「妖怪じゃないよ」という意味では、人とコミュニケーションをとる時にとてもいいきっかけになる言葉だと思います。相手に安心感を与えることで、話を引き出すことができ、それが相手を理解することにつながります。

スティーブン・R・コヴィーによって書かれた『7つの習慣』という本がありますが、私はその本がとても気に

入っています。その本の中の第五の習慣の中にある言葉で、「理解してから理解される」というのがあります。それは相手をよく理解するようにすると、自分も相手から理解されるということだと思います。

「もしもし」はとても短くて簡単な言葉ですが、相手を理解するためのきっかけになるすばらしい「ひとこと」だと思います。皆さんも電話をかける時や、人に声をかける時に言う「もしもし」を大切な「ひとこと」として、是非使ってみてください。

ありがとうございました。

# 「どうして他人と同じでないとダメなの？」

コウ ビ  
黄 薇 (中国)

皆さん、こんにちは。中国からまいりました黄薇と申します。どうぞよろしく願いいたします。

皆さん！ 私たちが仮に口がきけなかったり、耳が聞こえなかったりしたらどうなるでしょう？ そうです！ その言葉に代わって意志を伝える手段に「手話」がありますね。これは「どうして他人と同じでないとダメなの？」という意味です（手話と一緒に）。

この一言で私の生きる姿勢が大きく変わりました。以前の私は自信がなく、いつもマイナス思考で自分を見つけていました。たとえば「母がまだ生きていてくれさえしたら」とか、自分の容姿についても「もっといい遺伝子を受け継いでいれば」などと、いつも思っていました。とにかく自分を卑下してばかりで、自分を信じるという勇氣など湧いてきませんでした。

日本に留学してゼロからバイオリンを習い始めた私は、インターネットを利用して、世界の有名なバイオリニストの演奏を真似ることにしました。その中で、ある耳と口の不自由なタイの女性のバイオリニストの演奏に強く胸を打たれました。

なぜなら音楽を志す者にとって、耳が聞こえないというのは大きなハンディだからです。案の定、壁に突き当たり、悩んでいた彼女は、かつての恩師の助けを求めました。「先生、私のような障がい者にはどうしてもうまく弾けません」。先生はすかさず手話で「どうして他人と同じでないとダメなの？ バイオリンは耳だけでなく、心でも弾けますよ」（手話と一緒に）。それが恩師の答えでした。

私はこの先生の言葉で目から鱗が落ちました。私は彼女のような障がいがあるわけではありません。たとえ他人と違うところがあっても、「むしろその違いこそ価値がある」、「自分の存在自体が、この世で最も美しい奇跡」とすら思えるようになりました。

この言葉のおかげで、私は一步前に踏み出すことができました。去年の夏休み、私は一人で台湾に行きました。台北の青年旅館には様々な若者が集まっていました。将来自分の写真集を出版したいという夢を持って、18歳から一人で世界のあちこちで写真を撮っているという香港の男性。卒業した後、台湾で起業したいというアメリカ国籍の中国人男性。街でも素敵な人々に出会いました。歌手になりたいという若い頃からの夢を捨てず、喫茶店を経営しながらその利益で自分のCDを作っているというおじさん。どの人も生き生きと輝いて魅力的な中国人

です。

彼らの生き方に刺激を受け、私も自分の心に耳を傾けました。「ピアノより、バスケットボールが好き。旅行するのなら、観光地より、町の本屋やスーパー、市場などに行きたい。お土産より、本や雑誌、CDを買いたい。こんな私のどこが悪いのか？ どうしてありのままの自分を表現できないのか」。

日本語には「十人十色」という言葉があるように、人はみな違って当たり前のものです。たとえ、目が不自由な人でも「美しい心の太陽」が見えるかもしれません。たとえ、耳が不自由な人でも「すばらしい心の音楽」が聞こえるかもしれません。みんながお互いの違いを尊重し合うことで、障がい者も外国人も、だれもが生きやすい世界が生まれるのではないのでしょうか。私は「自分の存在自体がこの世で最も美しい奇跡」と信じて、自分らしさを大切にしていきたいと思います。

どうして他人と同じでないと、ダメなの？（手話と一緒に）。

ご清聴どうもありがとうございました。

## 「ジャパントイムで人付き合い、そして日本を学ぼう」

イ テ ヒ  
李 泰喜 (韓国)

皆さん、こんにちは。私は四国の美しさに魅了されて、韓国からまいりました李泰喜と申します。こんなに暑い夏の日に私たちの弁論大会のために来ていただき、感謝の言葉ありません。今日、私はこの四国、そして日本に来て感じた、韓国と日本の違いについて話をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

韓国にはコリアンタイムという言葉があります。コリアンタイム、一体どういうタイムでしょうか？ 一般的に韓国人というと、「パリパリ (早く早く)」という言葉がたくさん話すことで知られています。皆さんの中にも、ご存知の方がいらっしゃると思います。確かに韓国人はよく「早く早く」という言葉を使います。しかしこのコリアンタイムはちょっと違います。このコリアンタイムという言葉は、約束の時間から5分から10分、長くなると20分も遅れる人の時間を示す言葉です。先の「早く早く」のイメージとは全然違いますね。私はここに来てからこのコリアンタイムのせいで、たいへんひどい目に遭ったことがあります。

事件の発端は去る5月20日、坂出で塩祭りが催された日のことでした。私はこの塩祭りに行こうと思い、日本人の友だちも誘って、みんなと一緒に行く約束をしました。約束をした時、私はいつもの通りにコリアンタイムを考えて、電車の出発時間の20分前に会うことにしておきました。誰か10分ぐらい遅れて来ても、電車に乗って出発するには何の問題も起こらない時間だと考えました。とにかく、ここまでは何の問題もなく順調でした。

しかし、問題は約束の当日に起こりました。そうです。私は約束の時間が守れなかったのです。むしろ、コリアンタイムを完璧に守ってしまいました。遅くなっても10分ぐらいは大丈夫だろうと気楽に思っていたのが原因でした。しかし、当時私は遅れたことを特別なこととは考えていませんでした。事前にだれか遅れることも考えておいた上の待ち合わせ時間でしたので、電車に乗るには何も問題はなかったんです。でも、一緒にいた日本人の友だちにとってはそうではありませんでした。

私は時間の約束をちゃんと守らない、とても悪い人になってしまいました。怒っている友だちを前に、私はまごついて話しました。「いや、すいません。でも電車にはちゃんと乗れたから、まあ、いいでしょう。こういう場合も考えて時間に余裕を持たせておいたのだから大丈夫じゃないですか？」すると日本人の友だちが真剣な顔で答えました。「違う、時間の約束は大切だよ。みんなと約束をしたからその時間はきちんと守らなければならない。

日本は約束の時間から予定が始まるのが普通。だから少なくとも約束の時間から10分前には着いているのが当然のことだよ。それがマナーだ」。

その話を聞いて、私はすぐには納得できませんでした。もちろん、私が遅れてきたのは十分悪いことです。でも、結果から見ると何の問題もなかったのに……これは融通がきかないな、と心の隅で考えていました。そして、それは一つの疑問になりました。何でこんなに時間に厳しいんだろうと。

韓国では、個人的な時間の約束について、そんなにルールが厳しくありません。1時間以上も遅れるのは確かに韓国でも失礼になる場合もありますが、10分から20分ぐらいは認められる雰囲気です。ここにいらっしゃる皆さんは、それはとても迷惑をかけることだとお考えになるかもしれません。しかし、韓国では人付き合いは、お互いに迷惑をかけながら構築されるというところがあります。人が人と付き合う時は、どうしても迷惑をかけざるをえないという考えからです。だから10分から20分ぐらい遅れても、それがたいへんな影響を与えない限り、大きな失礼だとは思いません。

しかし、日本では違いました。私はその事件以後、いろんな日本人と付き合いながら、それがわかってきました。日本人は、人と付き合う時、とても気を配ります。お互いになるべく迷惑をかけないようにして、相手を傷つけないよう、また自分が傷つかないようにします。だから、時間の約束もちゃんと守ってお互いに迷惑をかけるようにすると。韓国とは正反対の日本の考え方に気づいた私は、やっとう頭がすっきりしました。

この話は韓国と日本の時間に関する単純なエピソードに過ぎないかもしれませんが、でも、私はこの時間に対する韓国と日本の考え方で、両国の文化の一部を少しだけ覗けたような感じがします。お互いに迷惑をかけながら人と付き合うのが大好きな韓国人。だから、約束の時間からちょっと遅れても大丈夫。一方、お互いに気を配って、迷惑をかけないようにする日本人。だから約束の時間はちゃんと守らなければならない。このようなお互いの考え方を理解してから近づくと、もっと相手を理解できるようになる。そう考えた私はここ日本で過ごしている限り、ジャパントイムをちゃんと守っていきながら、日本の社会をもっと学びたいと思います。

以上で話を終わらせていただきたいと思います。ご清聴いただき、ありがとうございました。

# 「友好の道を築く」

リュウ シン  
劉 晨 (中国)

こんにちは。私は劉晨と申します。私のテーマは「友好の道を築く」です。

2010年の夏休みに、高松市弦打小学校の学生が中国南昌市を訪れました。中国家庭のホームビジット、学校の見学やそこのすばらしいパフォーマンスなどを通して、両市の学生たちが触れ合い、交流しました。このイベントは高松市と南昌市の学生友好交流でした。光栄なことに、私はこのイベントに日本語通訳として参加することができました。日本の学生と接することができたのは、たった3日間でしたが、その間に受けた感動と驚きの数々は、今でもはっきり覚えています。

その交流の中で、特に印象深かったことが二つあります。一つ目は、私が日本の学生に「中国へ来る前には中国に対してどんな印象を持っていましたか？なぜこのイベントに参加して中国へ来ようと思ったんですか？」と質問した時のことでした。学生たちは本当に正直に答えてくれました。この質問に対して、ある日本の学生は、「これまで中国は怖いという印象を持っていました。それでも今回の機会を利用して中国へ来ようと思ったのは、メディアを通してばかりではなく、自分自身の目で本当の中国を見てみたかったからです」と答えてくれました。

私は初めに怖いという印象を持っていたことを聞いた瞬間、どっきりしました。しかし次の瞬間、この機会に直接交流することによって、必ず誤解を解くことができることに気がつき、ほっとした気持ちになりました。

そのことに気づいてから、なぜ両市の担当者たちは日中友好を重視していたのか、そして今回の学生を対象としてのイベントを開催したのか、少しわかったような気がしました。きっと、両市の担当者たちは日中友好を押し進めるためには、好奇心に満ち溢れ、真実を追求する精神を持つ、青少年の相互交流こそが重要だと考えたのでしょう。

二番目に印象深く、嬉しかったことは、中国人学生が日本人学生を見送る時のことでした。3日間の交流を通じて、学生たちの間に友情が生まれました。もうすぐ別れるという時に、学生たちは手を取り合って「あっという間に過ぎちゃうね。帰国してからすぐ連絡してね」と泣きながら話しました。「言葉は違うけど、若者同士だからな。案外コミュニケーションは難しくなかったし、通訳しなくても考えも結構似ていた」と私は感じました。学生たちの姿を見て、これからの日中両国のあるべき姿が現れたように思えました。

日本・高松市と南昌市は友好都市で、20数年間の友好交流を続けています。教育における交流だけではなく、文化、経済、観光など様々な交流を通じて、友好を深めています。この変化の激しい時代に、こんな深くて長い友好関係を築いてきたのは、とても大切なことだと思います。

2010年、学生たちの交流は、友好の道を築くための一つの点となりました。両市間の一回一回の交流で点は線となっていきます。そして日中両国における他の友好都市の交流によって、線は面になりつつあります。このように築いてきた友好の道は、どこまでも長く続いていくはずと、私は信じています。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 「普通の外人じゃない」

ニシムラ  
西村 ゲイブ (アメリカ)

皆さん、こんにちは。

「外人！」日本にいる時にはいつもこう呼ばれています。時間が無い時は「いいえ、私はハーフです」とだけ答えています。決してその答えが十分だと思いません。確かにアメリカで育って、日本人の父親とアメリカ人の母親から生まれたハーフですが、ハーフという言葉が意味するところを、みんなが本当に理解しているのかは疑問に感じます。なぜなら私がハーフだと言えば、ほとんどの人はただの外人だと認識するようだからです。

一例を挙げれば、私が仕事をしている時に、2人のおばさんが私について話していました。

「わあ、ここ外人が働いているの？」

「うん、ハーフだって。」

「んー、まあ、外人は外人でしょ。」

外人は外人。もし私に十分な時間があれば、そして、もっと日本語をうまく話せる自信があれば、彼女たちのところに戻って、こう言ったでしょう。「ごめんね、おばさん。けど、今や世の中はそんな簡単なものじゃないよ。普通の外人じゃないんだ。」

普通の外人じゃない。この意味とは？

まず、外人と日本人という言葉から考えてみたいと思います。日本人にとってこれら二つの言葉で、世界中の人々を外人か、または日本人かに分類するようです。つまり外人でない人は日本人で、日本人でなければ間違いなく外人ということです。しかし実際にそんなに簡単に人を分類することができるのでしょうか。この二つの言葉に明確な定義などはありません。

ではその人が外人であるか、日本人であるかの判断基準は何でしょうか？ 生まれた国でしょうか？ 育った国でしょうか？ 見た目？ 言葉？ 国籍？ 考え方？ 私は心理学者ではありませんが、おそらく日本人が無意識的に他人を外人か日本人かに分類する場合、二つの重要な基準があると考えています。一つ目は見た目で、二つ目は言葉です。これが常に私が「外人」とみなされる要因です。

私は普通の日本人のように見えないし、普通の日本人のように話せないからです。しかし思い出す限り、私はハーフだと訴えつつも、自分が日本人だという思いを強く持っていました。私の父が私に日本人の外見を十分に受け継がせてくれなかったかもしれません。日本語を十分に教えてくれなかったかもしれません。しかし少なくとも父は私のルーツに誇りを十分に抱かせてくれました。

そして私が学生の時、ほとんどの友人は様々な国のアジア人たちでした。私の学校はほとんど白人だったため、アジア人は一緒にまとまっていました。そしてたまたま私たちはからかわれていました。たとえばみんな背が低かったり、両親が変わった発音だったり、みんな数学しかできないと思われていたり、学校に持っていったランチボックスの匂いがみんなと違っていたり、というようなことです。でもこれに対してアジア人という誇りを持っていておかげで、私たちはだんだんと強くなりました。引け目を感じることもなく、むしろ我々の違うバックグラウンドはすばらしいものだと感じていました。韓国人や中国人、ベトナム人の友人たちの中で、私はまるで日本人代表でした。それが私のアイデンティティの確固たる一部だったし、その一部が私の強さの源の一つでした。

だから日本人が私を外人と決めつける時、まるで彼らが私のアイデンティティの一部を消してしまおうとしているかのように感じます。一番辛いことは日本人からこうされることです。なぜなら日本人は私の同族で、仲間のはずだからです。私は日本人です。しかし日本のほとんどの人が考えている日本人と同じではありません。

今日、多くの人が理解している日本人と外人という言葉は、既に時代遅れです。島の中の人々と、島の外の人々を簡単に区別できていた時代の言葉だからです。しかしながら、よくも悪くも、時代は変化します。グローバル化は国境を曖昧にし、今や日本人は世界中に存在します。考えもつかない見た目、考えもつかない行動、考えもつかない言葉を使っている日本人はたくさんいますが、それでも彼らは依然として日本人としての血筋と誇りを持っています。そんな彼らを普通の外人と呼ぶことができますか？

日本が21世紀という時代を突き進むためには、日本にいる日本人は、そういった外国にいる日本人に対する認識の仕方を考え直すべきです。なぜならば私たち外国の日本人はますます増えていくことは確実で、もしかしたら将来生まれてくる皆さんの子どもや孫は、外国の日本人になるかもしれないからです。その時に自分の子孫たちが日本についてどのように感じるのかは、今の自分の行動によって変わっていくのではないのでしょうか。

ありがとうございました。

## 「いいサービスとは」

ガク ギョウレイ  
岳 暁玲 (中国)

皆さん、こんにちは。中国からまいりました岳暁玲と申します。どうぞよろしくお願いたします。

皆さんは中国に行ったことがありますか？ 中国のサービス態度をどう思いますか？ 多くの日本人が「中国のサービス態度は悪い」と言います。私は日本のサービスを体験して、「こんなサービスなら中国も数年後にはできるようになる」、「自分の国が日本に負けてほしくない」と思いました。しかしアルバイトを始めてからこの考え方は変わりました。

最初のアルバイトは居酒屋の調理の仕事でした。ある日、冷凍した豚バラを分ける時に、私はビニール手袋をつけるのが面倒くさくて、そのまま素手で分けました。分けた後、他のものを触ろうとした時、隣にいた日本人の女性スタッフから「ストップ!」と言われました。私はわけがわからないまま彼女の方を見ると、彼女は厳しい口調で言いました。「岳さん、ダメですよ。生肉を触った後、手を洗わずに、また他の食べ物を触っては。ちゃんと手を洗ってください」。そして私が手を洗いに行った間に、彼女は私が触ったあたりをアルコールで消毒していました。「そんなに大げさなことなの？」私はそう思いました。すると彼女はまた私のところに来て、「ちゃんと洗っている？」と聞きました。「はい、ちゃんと洗っています」と答えながらも「こんな細かいことまでくどくど言って、うるさいな」と不満に感じました。彼女は私が納得していないとわかったようで、さらに言いました。

「生肉には細菌があるの。だから肉を触った手で、また他の食べ物を触ったら、細菌がうつるのよ。もしお客様が食べて食中毒にでもなったら、店の信用がなくなって、潰れてしまうかもしれない。そうなったら、この店の何十人ものスタッフは仕事がなくなる。岳さん一人だけの問題じゃないのよ」。

それまで私はアルバイトというのは、ただ仕事をして、給料を貰うことだと思っていました。しかし、彼女の話聞いた瞬間、「なるほど。お客様がいるからこそ、私はこの店で働くチャンスを得られたのだ」と悟りました。そういえば、彼女はいつも刺身を盛り付ける時に、どうしたらおいしそうに見えるか、いろいろ工夫して、お客様に喜んでもらうことを考えています。彼女の態度を見て、お客様が見ていないところでも、心を込めてやることこそが、本当のサービスなのだと教えられました。

この経験で、お客の立場でも、サービスに対する見方が変わりました。「こだわり麺屋」にうどんを食べに行っ

た時のことです。テーブルの上に、うどんの材料と産地を書いているカードが置いてありました。そのカードにはどこで作ったのか、どんな工夫をしてこんなおいしい野菜ができたのかが全部書かれています。私はそれを見て感心しました。こうしたら、お客様に安心して食べてもらえる上に、食べておいしいと思うお客様がいたら、産地から直接買うこともできます。もう一つ感心したのは、スーパーにレシピを置いていることです。レシピには作り方だけではなく、カロリーも書いてあります。これはスーパーが売り上げを増やす手段の一つだと思っている人が多いかもしれませんが、私はそのレシピを見た時、このスーパーは本当にお客様のことを考えたいサービスを提供しているな、と感心しました。

中国は2008年の北京オリンピック開催をきっかけに、世界中から来たお客様にいいサービスを提供しようとアピールしました。確かにこれで中国のサービスの態度は随分よくなったと思います。しかしそれも表面的なものに過ぎません。

中国は人口が多く、急激に経済が発展しているため、たくさんの外国企業が中国を「大きな市場」と考え、中国人にものを売ろうとしています。そのため、中国に進出する外国企業が年々増えています。しかし競争が激しい中国で、商売に成功し、長く続けていくのはたいへんなことです。中国の市場が成熟化すれば、お客様は今のようなサービスでは満足できなくなるでしょう。その時、日本のように、お客様が見ていないところでも心を込めておこなうサービスが、効果を発揮すると思います。

私は大学で経営学を専攻していますが、これからも理論と実践を通じて、日本のサービスを学んでいきたいと思っています。

ご清聴どうもありがとうございました。

# 「あなたの心のふるさとはどこにありますか」

ドン ユンジェ  
董 侖宰 (韓国)

皆さん、初めまして。私は韓国から来た董侖宰と申します。私は今年の3月に韓国の大田から香川県にやってきました。今は香川県の善通寺市にある四国学院大学で日本語を学んでいます。いたらない日本語ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは私が経験したホームシックについて発表させていただきます。皆さん、ホームシックについてご存知ですか？ 海外に住んだ経験がおありの方はご存知だと思います。ホームシックとは自分の国を懐かしがる心の病です。海外で生活している人だけではなく、ふるさとから離れて生活している人たちにもよくあることではないでしょうか。

しかし私はこのホームシックのおかげで、長い間忘れていたふるさとの思い出と、香川県の中での新しいふるさとを見つけることができたのです。少したいへんでしたが、私はこのホームシックにかかったことが、今、本当にありがたく感じています。

この心の病が私をおそったのは4月の末頃でした。日本に来る前に、書類の手続きや荷物の準備をしていた時には、まさか私がホームシックにかかるとは想像もしていませんでした。毎日食べたいほどおいしそうだったうどんに飽きてしまい、韓国では味わうことができない珍しい日本のビールの味さえ飽きてしまったのです。街を歩いていたら周囲から目に入ってくる日本語の看板も見るのが辛く、毎日話す日本語の会話もどんどん苦しくなり口が重くなっていきました。全てが見慣れないものばかりで、食欲も意欲もどんどん失っていく感覚を味わいました。

最初はなぜ私がこういうふうになってしまったのだろうと一人で悩んだこともありましたが、韓国から一緒に来た友だちに相談してみようかと思ったこともありましたが、たいしたものではないと思い、相談することを断念しました。その後、私の病はどんどん重くなっていきました。食べ物も生活も違う。当たり前だと思っていた景色が見えなくなり、都会ではない、畑が見える田舎の隅での生活。気持ちが弱くなるのは当然だと思いませんか？

心の病であるこのホームシック、私には絶対ないと思っていました。でも「苦あれば楽あり」という日本の諺のように、いつまでも辛いことばかりあるわけではなかったのです。食欲も意欲もない私のホームシックの病を治してくれたのは、たいしたものではない、ありふれた虫の鳴き声や野菜の漬物でした。皆さんは不思議だ

と思うかもしれません。虫の鳴き声や野菜の漬物が、このホームシックの病と何の関係があるのか、理解できない人も多いと思います。でも私はこのホームシックのおかげで、香川県にある私のふるさとを見つけることができたのです。

まず一つは香川県にある音です。皆様、寝る前に周りの音に耳を澄ませたことはありますか？ 夜になると聞こえてくるのは、虫やカエルの鳴き声、涼しげに吹いている風の音、じっと耳を澄ませてみると、私のふるさとの春と似ているように感じました。家や外の風景は少し違っていました、昔私が住んでいたところの音と同じでした。

そしてもう一つは、白菜の漬物や、きゅうりの漬物でした。ある日、私の彼女は食欲がない私のために、野菜の漬物をプレゼントしてくれました。その漬物は、私が幼い頃、祖母が野菜を食べない私のために、直接育てた野菜を使って、作ってくれた思い出の料理です。祖母の漬物は私には特別なものでした。祖母の漬物は味だけではなく、都会の刺激的な料理に疲れた私の口や舌を癒してくれるような温かい味でした。

私は本当に感謝しました。長い間忘れていた祖母の味を思い出させてくれたと感じました。虫の鳴き声や野菜の漬物、こういう私のふるさとの音や味が韓国だけではなく、この日本、つまり香川県にあるという事実がすごく嬉しかったです。

どうですか、皆さん。皆さんも私のように他国でふるさとを見つけたことがありますか？ 私は時々思います。こういうホームシックはただの病ではなく、長い間忘れていた思い出を見つけてくれるきっかけだと。こういうきっかけがあるのは、私だけではないと思います。いかがですか、皆さん。皆さんも一緒に探してみませんか。身の回りに耳を澄ませてみると、聞こえるかもしれません。皆さんも私のように耳を澄ませてみると、見つかるかもしれません。懐かしいあの頃のふるさとが……。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 「すごい日本人のマナー意識」

リ シュウセイ  
李 秋 靚 (中国)

皆さん、こんにちは。中国の大連からまいりました留学生の李秋靚と申します。よろしくお願いいたします。

2年前、日本に来てから、いろいろな日本の方から「日本人についてどう思いますか?」とか「日本の国についてどう思いますか?」とか、よく聞かれました。日本には銀座中央通りとか、総理大臣より名高いアニメ文化とか、世界的に有名なものがたくさんありますが、私が強調したいのは、日本はマナーがとってもいい国だということです。

1年前、私は神奈川県に住んでいました。その時に印象的だったのは、駅などで順番待ちをする時、自然にできた列にみんなきれいに並びます。横から割り込む人はいません。また、電車内など公共の場所では携帯電話をマナーモードにするなどを、自発的におこなっていることです。

特に私にとって絶対に忘れられないことは、2011年3月11日の東日本大震災です。その日、私は神奈川県の日本語学校にいました。震度5強で、人が立ってられないほどの揺れ、高層ビルの揺れがなかなか収まらないなど、生まれて初めての経験でした。留学生たちは大きな不安や恐怖におそわれましたが、駅ですれ違った日本人の表情は落ち着いていて、とてつもない大地震があったとは思えないほどでした。

電車が止まり、交通渋滞になり、多くの人が帰宅困難になりました。足止めされた通勤客が駅の階段で、通行の妨げにならないように、自ら両脇に寄って座っていました。また、大勢の人が徒歩で帰宅することになりましたが、皆さん、きちんと順序よく歩いていて、大騒ぎはありませんでした。道路は大渋滞でしたが、けたたましくクラクションを鳴らす車は1台もありませんでした。地震の翌日、駅から数百メートルも行列ができましたが、駅の係員の仕事は列の最後尾を教えることぐらいで、列に正しく並ぶようにとの強制や指示は全くなかったにもかかわらず、全ての人が整然と行列をつくり駅の外で待っていました。

地震後、コンビニやスーパーで食品などの品切れが多くなっても、人々は静かに列に並んでいて、略奪やパニックは起こりませんでした。この震災の様子が世界に報道されたと同時に、他人に迷惑をかけないことを重んじる日本人の考え方が注目されました。日本人はどんなに過酷な状況でも、いや過酷になればなるほど、ちゃんとマナーを守る国民だということを、私はこの目で確認しま

した。

どうして日本人はすごいマナー意識を持っているのでしょうか。それは学校や社会の教育のおかげだと思います。中学生の頃読んだ、日本人のマナーについての不思議なエピソードを思い出しました。夜中、おじいさんが、全く車が通っていない交差点でじっと赤信号で待っていました。そして青信号に変わるのを待ってから交差点を渡りました。この様子はテレビ局の観測カメラに撮られていました。記者に信号無視をしなかった理由を聞かれたおじいさんは「もし信号無視をして、向こうのマンションに住んでいる子どもに見られたら真似されますよ」と答えました。

小学校で「人に迷惑をかけない」「ゴミを勝手に捨てない」「列の割り込みをしない」などの日々のマナー教育をしているおかげで、他人のことを思いやり、社会秩序を守ることができているのでしょう。信号待ちのおじいさんの言葉のように、子どもは大人たちの振る舞いを見て成長していきます。マナーを守るとは、人間にとって争いのない、よりよい社会を築く第一歩ではないかと思えます。だからこそ私たちにはマナーを守り、次の世代に伝えていく責任と義務があると思えます。

私は将来教師になりたいと思っています。教師になるという目標を必ず実現して、どんな状況であっても、マナーを守る強い意志を子どもたちに伝えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



# 第 23 回外国人による日本語弁論大会 優秀賞受賞者

## 香川県知事賞

氏名	国籍	テーマ
ニシムラ 西村ゲイブ	アメリカ	普通の外人じゃない

## 高松キワニスクラブ会長賞

氏名	国籍	テーマ
リ シュウセイ 李 秋靨	中国	すごい日本人のマナー意識

## 高松ゾンタクラブ会長賞

氏名	国籍	テーマ
イ テヒ 李 泰喜	韓国	ジャパントイムで人付き合い、 そして日本を学ぼう

## 香川県国際交流協会理事長賞

氏名	国籍	テーマ
ガク ギョウレイ 岳 暁玲	中国	いいサービスとは



## 第 23 回外国人による日本語弁論大会

---

開催日 平成 24 年 8 月 25 日 (土)  
場 所 アイパル香川 (香川国際交流会館)  
主 催 公益財団法人香川県国際交流協会

**公益財団法人香川県国際交流協会**

**Kagawa Prefecture**

**International Exchange Association**

〒760-0017 高松市番町一丁目 11 番 63 号 アイパル香川

1-11-63, Bancho, Takamatsu, Kagawa, JAPAN

Tel: 087-837-5908

Fax: 087-837-5903